2024年度　杏林製薬医学教育プロジェクト助成報告書

１．行った教育事業

名　称：耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術手技教育プログラム

担当者：一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会理事

羽藤　直人（愛媛大学医学系研究科長・医学部長、耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授）

本プログラムは、臨床研修医、専攻医を対象に耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術手技の向上を目指し、耳科・鼻科・頸部・喉頭気管の4つの領域で、下記のとおり開催した。

１）第125回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（2024年5月17日）にて、耳科＆鼻科、頸部、喉頭気管の4つの領域、3コースで、それぞれ側頭骨・鼻副鼻腔・頸部・喉頭気管のモデル等を実際に使用し、耳鼻咽喉科に興味のある臨床研修医と医学生のレベルに合わせた丁寧なレクチャーを実施した。

２）各コース1時間で4コマとし、耳科＆鼻科コース80名（体験者40名、見学者40名）、喉頭気管40名（体験者20名、見学者20名）、頸部40名（体験者20名、見学者20名）、計160名（体験者80名、見学者80名）の募集を行い、実施した。

３）参加者は、166名（体験者80名、見学者86名）で内訳は下記である。

	男性	女性	計
体験者（医学生）	9	5	14
見学者（医学生）	11	13	24
体験者（臨床研修医）	33	33	66
見学者（臨床研修医）	32	25	57
見学者（専攻医）	1	4	5
計	86	80	166

２．成果（教育効果の測定結果を含む）

ハンズオンレクチャーの前後に受講者に 5 項目のアンケート調査を行った。

各項目、0 点：全くできない（思わない）から、10 点：十分できる（とてもよくできる）の 11 段階とし、受講生に選択してもらった。各項目の平均点を示す。

	講習前	講習後
１）手術に自信があるか	2.5	4.7
２）解剖を理解しているか	3.0	5.1
３）手術手技は習得できているか	2.6	4.9
４）内視鏡・顕微鏡の使用はマスターしているか	2.2	4.5
５）手術器具の使い方はマスターしているか	2.3	4.9

以上のように、受講者自身、まだ耳鼻咽喉科手術の経験が十分でないため、受講前の点数は低いが、ハンズオンセミナー後は、各項目で有意に自分に対する評価が上昇し、教育の効果が得られた。

参加者のセミナー終了後の感想は、下記のとおり、全てポジティブな意見であった。講師の丁寧なレクチャーが、高評価を得られた原因であると考えている。

・非常に楽しかったです！（多数）

・説明がとてもわかりやすく、頭にすっと入ってきました。耳鼻科医を志したいと思います。ありがとうございました。

・大変わかりやすいご指導の元、手技中も大いに盛り上げて頂き、大変有意義な時間となりました。

・実際の手術器具に触れることができて面白かったです。

・電気メスなど初めて使わせていただいて貴重な経験になりました。これからまた手術見学をするのが楽しみです。

・丁寧に解剖と実技と教えていただきまして非常に勉強になりました。興味が大きくなりました。ありがとうございました。

ハンズオンセミナーの講師に関するアンケートでは、ハンズオンの重要性を再認識するとともに、指導する楽しみが多く述べられ、継続性を要望していた。機器と人材を提供した機器メーカーの参加者も同じようにハンズオンの熱気に興奮し、非常に楽しく、教育への貢献をした充実感を述べていた。

以上から本医学教育プロジェクトは、受講者、指導者、サポート側、三位一体の充実感が得られ、非常に有意義な教育事業であった。

2024年会計報告書　書式

（1）収入

項目	金額
自己資金	2,500,000円
杏林製薬医学教育プロジェクト助成	5,000,000円
合計	7,500,000円

（2）支出

項目	金額
運営費用（例：会議費、運営・管理費等）	3,279,709円
医学教育プログラムの案内に関する費用（例：案内状、招待状、受講申請書等の作成費等）	16,030円
教育資材等作成費等	1,576,417円
設備備品	759,000円
講師費用（例：謝礼、交通費、宿泊費等）	1,812,826円
認定費（医学教育プログラム受講完了に関する認定費）	43,615円
その他費用	13,178円
合計	7,500,775円